

伊藤先生の
街かど診療室
Q & A

眼科手術は
低侵襲手術の時代①
(白内障について)



伊藤 勇
保谷伊藤眼科院長
大学院で最先端の眼科医療に携わってきた眼科専門医。地域の医院との連携を積極的に図っている。

眼科の手術機械は2000年を境に大きく発展しています。メーカーや天才的な先生方が知恵を絞り、いかに侵襲が少ない手術が出来るかをそれこそ競うように開発しています。まずは白内障手術からです。白内障手術は20

年ちよつと前まで眼球に6mmの切開創を作り、眼内レンズを挿入し、縫合していました。現在は眼内レンズを2mm強の切開創から挿入でき、縫合せず術後の炎症も劇的に少なくなりました。この眼内レンズの普及が、日帰り白内障手術を可能にしました。ただ、切開創の問題だけでは低侵襲とはいえません。短時間のうちに手術を終わらせることも一つの低侵襲と思われ、それが手術をするために、極端に眼球に負荷を与え手術しやすい環境を作る方法もあります。しかし、それは時間だけに焦点をあてて、組織へのダメージに目を注ぐべきです。現在、各メーカーの発している機械は、手術中の眼球内の安定性を維持しながらも負荷を減らす、「低眼圧白内障手術」を可能にするものです。私は大学病院在籍中より、低眼圧白内障手術の実践を心がけていました。が、機械の性能によって冷や汗をかき、心拍数が上がる思いで手術していました。いわゆる、職人技を盗んで自分のものにしていくような感覚でした。現在は技術の発展の恩恵で、機械が眼圧をモニタリングして

与え手術しやすい環境を作る方法もあります。しかし、それは時間だけに焦点をあてて、組織へのダメージに目を注ぐべきです。現在、各メーカーの発している機械は、手術中の眼球内の安定性を維持しながらも負荷を減らす、「低眼圧白内障手術」を可能にするものです。私は大学病院在籍中より、低眼圧白内障手術の実践を心がけていました。が、機械の性能によって冷や汗をかき、心拍数が上がる思いで手術していました。いわゆる、職人技を盗んで自分のものにしていくような感覚でした。現在は技術の発展の恩恵で、機械が眼圧をモニタリングして

いて細かく調整しているため、「低眼圧白内障手術」は格段に安全に行えるようになり、術後の炎症はさらに少なくなり、術中の高眼圧が起因となる合併症や痛みもコントロールできるようになっていきます。ただし、手術自体のリスクは変わらないと思います。

☎ 042-439-8123
西東京市北町 1-6-1
レッツビルディング 3F
<http://www.itoganka.com/>
■科日：網膜硝子体疾患手術、緑内障手術
白内障手術、眼科一般診療
■時間：水・土曜午後、日曜、祝日は休診
※緊急手術は随時対応 ※月・金曜午後は予約優先

	月	火	水	木	金	土	日
9:30~12:30	○	○	○	手術	○	○	／
14:00~17:00	検査・診察	手術	／	手術	検査・診察	／	／